

司式 杉山昌樹牧師

奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 47:1 主よわれをばとらえたまえ

主よわれをばとらえたまえ さらばわがたまは解き放たれん

わがやいばを砕きたまえ さらばわがあだに打ち勝つを得ん アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 47:2 わが心は定かならず

わが心は定かならず 吹く風のごとく絶えず変わる

主よ、御手もて引かせたまえ さらば直き道踏みゆくを得ん アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書 6 ニケア信条

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。／我ら

は、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきにみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。／我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる共同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東部中会定期会議 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ヨハネ福音書8章1～11節 (新約聖書180頁)

レビ記19章13～18節 (旧約聖書192頁)

説教・祈祷 「背中で語るイエス」 杉山昌樹牧師

\* 賛美歌 47:3.4 わが力は弱くともし

3 わが力は弱くともし 暗きにさまよい道に悩む  
あまつ風を送りたまえ さらば愛の火は内にぞ燃えん

4 わがすべては主のものなり 主はわが喜び また幸なり

主よ 御霊を満たしたまえ さらばとこしえの安きを受けん アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 66 世をこぞりて

世をこぞりてほめたたえよ 御栄え尽きせぬあまつ神を アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老 (司会・受付 次週: 門脇陽子長老)

本日 受付 1階: 藤井牧子・佐藤紀子執事 2階: 古澤迪子執事 / ZOOMホスト・録音:

次週 受付 1階: 大日南隆夫・那珂信之執事 2階: 星野房子執事 / ZOOMホスト・録音:

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

## ヨハネ8：1-11 背中で語るイエス

### 説教題

今日の説教題は「背中で語るイエス」としました。すでに3月中に予告してしまっていて取り消せませんのでそのままにしていますが、もうちょっと別の題でもよかったかな、と思っています。というのも、この所ではイエス様は、確かに背中を向ける場面が2度ありますが、むしろ、本当に語るべき時は、すっと立ちあがって、相手に向き合い、はっきりと言葉を語っておられるからです。そして、私たちが聞くべきなのもまた、このイエス様が語ってくださった言葉です。

### 祭りのころ

ところで、このヨハネの箇所は、イエス様が仮庵の祭りの時にエルサレムに滞在しておられた時のようですが語られているようです。イエス様は昼は神殿で教え、夜はオリブ山で祈ったり、ベタニアの友人の家で過ごしたり、という生活をしていたのですが、すでにこの時点で、果たしてイエス様とは何者なのか、ひょっとして、本物の救い主ではないだろうかと思う人たちがいる一方で（7：26、31）、このよううわさを聞いたファリサイ派という人たちや、祭司長たちはむしろ危険人物としてイエス様を捕らえてしまおうと計画を練っていました（7：32）。ある意味では今日の所もその続きとして読むことができるでしょう。ファリサイ派の人たちは、何とかしてイエス様を追い詰めた、黙らせてしまいたい、と考えているようです。しかし、彼らがどのように思おうとも、すべては神様のご計画の中にあります。この時イエス様が囚われる時はまだ来ていません。けれども、今日、わたしたちが確認したいのは、イエス様ご自身について語っておられる言葉です。祭りの最後の大切な日にイエス様は、神殿の中で立ち上がって大きな声でこのように言われました（7：37以下）。「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」。有名な言葉ですし、このみ言葉が特に好きという方もおられるかもしれませんが、今日はこの言葉をぜひ私たちとての自分の言葉にしたいのです。とりわけ「私の所に来て飲みなさい」という招きの言葉に導かれて今日の聖書を読みたいのです。

### 群衆の中

ところで2節では朝早く神殿に出かけると群衆が大勢押し掛けてくることから始まっています。これはおそらく毎日繰り返されていたのでしょうか。そして、このような群衆の中には、いわゆる罪人、徴税人と呼ばれる人たちもいたのではないのでしょうか。このような人たちとイエス様との関係は、大変友好的なものだったようです。ヨハネではあまり描かれていないのですが、マタイ、マルコ、ルカ、といったほかの福音書では、しばしば、イエス様が、このような人たちと仲良く食事をする様子が描かれています（マタイ9：10等）。それは罪人を赦しの中に招き入れるイエス様のあり方の表れと理解できます。一方で、汚れたものと食事をして汚れたくないと考えているファリサイ派のような人たちにとって、律法における汚れをものともしないイエス様は、とんでもない存在に見えたことでしょう。その反発心は、すでに殺意にまで成長してしまっていました（7：25、特に5：18）。このところを読みます時に、このような大きな流れを知っていることは大切です。おそらく群衆の中には、イエス様を愛する罪人たちがいたのではないかと、思われます。一方で、この時、押し掛けてきた律法学者たちやファリサイ派といった人たちは明らかにイエス様を憎んで、それゆえ「訴える口実」（8：6）を何とか見つけ出してやろうとしっかりと計画を立ててこのところの行動に及んだとみてよいでしょう。

### 巧みな訴え

この所では、一人のあわれな女性が引き立てられ、群衆の真ん中に一人で立たされています。しかも、彼女の名誉などまるで考えることなく、裁判をする前から、彼女の問題行動が群衆の前でさらけ出されてしまっています。実際の所、彼女が本当にいわゆる不倫と言えるようなことをしたのかという点については、このところではあまりよくわかりません。実際にそのようなことがあったのかもしれませんが、ただ、本来律法が求めているのは、そのような行為に及んだ男女を等しくさばくことです（レビ

20：10、申命記22：22）。当時の社会ではどちらも死刑に値します。ところが、ここでは、なぜか、ファリサイ派の人たちは、女性だけを、それも都合よくその現場を押しえたのだ、と胸を張って引っ張ってきておりました、何となく胡散臭いのですが、それはともかくとして、彼らの意図ははっきりとしています。もし、この女性を救せ、と言え、イエス様は律法に逆らうこととなります。その一方で、裁いて死刑にと言え、今までのイエス様の律法を超えているように見える自由なふるまい、とりわけ罪人たちの仲間になる行為は誤りだったと指摘できる、あなたももつと律法を大切にしないのか、詰め寄れる、ということになります。

背を向けるイエス—かきにかかった人たちが窮地に

おそらく彼らはこの罟を周到に計画して来たのでしょう。これでイエスを追い詰められる、と期待して、さあ、先生どうこたえられますか、と返答を求めたのです。ところが、イエス様は、彼らに背を向けて、しゃがみ込み、黙々と地面になにかを書き続けておられます。彼らは、馬鹿にされたと感じたでしょうか、それとも、さすがにこれは答えに困っている、と見たでしょうか、さあ、先生、答えを、答えを、と自分たちの勝利を一刻も早く確かにしたいと願って詰め寄っています。その時、イエス様はすっと立ちあがって、彼らに言われました。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」（7節）。この箇所は、この対比が鮮やかです。イエス様は、語られるときには、すっと立ち上がられるのですが、そうではない時、周りに考えてほしい時には、しゃがんで地面に何かを書く、ということをして2度繰り返しておられます。ここではまさに、イエス様の一言によって形勢が逆転しました。イエス様の答えは、完全に律法に一致しています。何しろ、姦淫の罪に問われている女性に石を投げることを促しています。ところが、そこに一つの条件を加えることで、今度は、イエス様を問い詰めていた人たちが、問われることになりました。自分の中に罪があるかどうか、自分自身が罪人に石を投げつける資格があるかどうか、問われてしまっているのです。

誰も問えない

この問いは、私たち自身もまた、問われることかもしれませんけれども、とりあえず、この所の筋からしますと、誰も、この女性に石を投げられる、と考えた人はいませんでした。罪を犯した人を裁ける人は、実は誰もいない、という事実がここで明らかになっています。人々は、年長者から、一人去り、二人去り、とうとう、女性とイエス様だけを残して、みないなくなってしまう。だれもが、みな自分の罪に気づかざるを得なかった、ということです。まさにイエス様は、背中を語っているように見えます。あなたは罪がまるでないのですか、あなたは、堂々と人を罪に定められますか、と語り掛けておられるように見えます。そしてこの出来事ではっきりとしているのは、誰も罪から自由な人はいないという事実です。その場合に聖書の言う罪の中身がどのようなものであるのか、ということについては、じつは丁寧に考えたほうが良いのかもしれません。けれども、今日はとにかく、私たちそれぞれが、罪と思っていることで十分です。私たちは誰でも、自分が何らかの意味で、罪深いことを心の奥深いところでは気づいているのではないのでしょうか。もちろん、ここにおられる方は、特別に何か事件を起こされた方はいないでしょう。それでもやはり、虚心坦懐に自らを振り返るのなら、自分にもまた罪がある、と思わざるを得ない、そんなところが私たちそれぞれにあるのではないのでしょうか。

二人が取り残される

ところで、この9節後半はこうなっています。「イエスひとりと、真ん中にいた女が残った。」あれほど大勢いた人たちはみないなくなってしまう、ただ、しゃがみ込んで地面に字を書き続けるイエス様と、真ん中に立たされていた女性だけがぽつんと残っているのです。そして、この場面もまた、とても大切ではないかと私は考えています。と言いますのも、この組み合わせにおいて、次の出来事起こるからです。それは、一言で言えば、罪の赦しの宣言です。そして、これは、この女性だけではなく、私たち一人一人、誰にとっても必要であり、大切なことのはずです。しずかにたたずむイエス様と、罪を犯した女性、しかし、この女性は、私たちの分身かもしれません。そして、イエス様は、もう一度身を起こして女性に語り掛けるのです。「あなたを責めていた人たちはどうなったのか」、「誰もあなたを罪に定めなかったのか」。これは、確認の言葉です。事実をはっきりと受け取らせる言葉です。人は誰も

あなたを罪に定められない、ということの確認です。そしてこれは私たちへの言葉でもあります。私たちはただ神様によって罪に定められます。神様以外に私たちを、神様との関係における罪に定めることはできないのです。

#### 私も罪に定めない

しかし、それだけではありません。このところで本当に大切なのは、イエス様ご自身の宣言です。「わたしもあなたを罪に定めない」これこそが、決定的な赦しの宣言です。たとえどれほど周りから責められようとも、イエス様ご自身が、「私もあなたを罪に定めない」とすつくと立ちがって、高らかに宣言してくださっているのです。そして、これよりも確かな宣言はありません。なぜなら、これはイエス様ご自身の宣言であり、とりわけ、十字架で罪のすべてに勝利して下さり、神の右の座ですべてを支配してくださっている方の宣言だからです。あのイエス様が、罪の赦しを宣言されています。私たちは、この言葉を今日いただいているのです。しかもそれだけではありません。

#### 招くイエス

この罪の赦しの宣言に続いて、「行きなさい」と送り出してくださっています。さらに、その背中に向けて、「これからは、もう罪を犯してはならない」という言葉を投げかけておられます。これは、新たに規則を与える言葉ではありません。まして、今回は赦すけれども、次は知らないぞ、という脅しでもありません。そうではなく、私が与えた赦しの中で生きていきなさい、という招きの言葉です。神様から、イエス様から離れ、一人きりで、様々な過ちに引き寄せられてしまうのではなく、私と共に、罪を赦す私の宣言と一緒に歩いていきなさい、赦しの中を歩みなさい、という招きの言葉です。

#### 背中で語るイエス

背中で私たちの罪を示してくださったイエス様は、私たちの背中に、「行きなさい、これからは、もう罪を犯して貼らない」「私と一緒に歩め」と言葉をかけてくださっています。私たちは、この言葉に励まされ、この週も、イエス様の赦しと共に生きていきたいのです。

#### 祈り

父なる神様、受難節の歩みの中にあります。主イエスの十字架の恵みを味わう日々の中にあります。わたしたちがすでにあなたの、そして主イエスの招きの中にありますから感謝します。地上においてはなお罪の表れがあり、私たちもその中にあります。どうぞわたしたちがこの世界の中で、罪に導かれるのではなくあなたの召しだしと共なる歩みの中で平和を造ることができますように。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。